令和８年１０月１６日

保護者・地域の皆様

福津市立福間小学校
コミュニティ・スクール福間
校長　西田　剛信

令和８年度　全国学力・学習状況調査及び福岡県学力調査の結果について

本年度の６年生対象の全国学力・学習状況調査，及び，５年生対象の福岡県学力調査の結果をお知らせします。この結果は学力の全てではなく一部ですが，この結果をしっかり分析し，今後の指導に活かしていきたいと考えています。

1　全国学力・学習状況調査（第６学年）

■全国学力・学習状況調査とは

○　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図ること

○　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てること

■実施時期・内容等

○　実施日　　令和８年４月23日（木）

○　内　容　　・教科に関する調査（国語・算数）
　　・生活習慣や学校環境に関する質問紙調査

■調査の結果

【国語】

○　全国・県平均と比較して，上回る結果となりました。

○　問題形式別において，「選択式」「短答式」「記述式」の中で，「選択式」，「短答式」（漢字）が高い結果となっています。

●　「書くこと」に課題が見られました。

【算数】

○　全国・県平均と比較して，やや上回る結果となりました。

○　国語と同様に「短答式」がやや高い結果となっています。

●　「変化と関係」に関する問題に課題が見られました。

【児童質問紙】

○　「将来の夢や目標をもっている」「自分にはよいところがあると思う」の項目での本校の肯定的回答は昨年度に引き続き，今年度も福岡県や全国の結果を上回っており自己肯定感の高さが見られます。また，「いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思う」は，解答した児童全員が多く，いけないことだと捉えることができています。

○　「人の役に立つ人間になりたい」，「地域や社会をよくするために何かしてみたい」の項目では，昨年度より肯定的な回答が増えています。地域・社会の一員と貢献意欲の向上は，「ふるさと学習」において，さまざまな体験活動を取り入れ，それらのよさの気付きが生まれた結果だと考えます。引き続き，交流活動を積極的に取り入れたり，地域の行事への参加や体験活動を紹介したりします。

●　「学校の勉強のことについて，家庭でどれくらい話しているか」の項目が，やや低くなっています。これらは，子どもたちが「家庭で学習や学校生活について話す機会」が，十分とは言えない状況であることを示しています。そこで本校では，日ごろの家庭学習やチャレンジウィークの期間に，親子で対話する時間を意識的に設けていただくことをお願いしていきます。

2　福岡県学力調査（第５学年）

■　福岡県学力調査とは

○　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，県内各地域における児童の学力の状況をきめ細かく把握・分析することにより，各学校が児童の学力の状況を把握することで，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図ること

○　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てること

■　実施時期・内容等

○　実施日　　令和８年５月18日（月）

○　内　容　　・教科に関する調査：【国語】【算数】

・学習意欲，学習方法及び生活習慣等に関する調査：【質問調査】

・教科に関する調査は，「IRT（Item Response Theory）」（項目反応理論）※による調査を実施する。また，児童生徒質問調査のいずれも，児童生徒が活用するICT端末等を用いて，オンライン方式（CBT）で実施する。

※IRT(項目反応理論)とは
　国際的な学力調査や英語資格試験の TOEIC などで採用されているテスト理論です。この理論を用いることによって，異なる問題から構成される試験・調査の結果を同じ尺度（ものさし）で比較するため，問題の難易度によって結果が左右されることなく，受検者の能力を正確に測定できる特徴があります。

■　調査の結果

【国語】

○　県平均と比較して，やや上回る結果となりました。

○　教科の領域別で見た際，「読むこと」が高い結果となっています。

●　「要点を理解しながら発表を聞き，欠けている内容を質問すること」に課題が見られました。

【算数】

○　県平均と比較して，やや上回るとなりました。

●　「変化と関係」に課題が見られました。

3　今後の学力向上の方策

①「わかる」授業・「伸びを実感する」授業づくり

□　学習の振り返りを重視し，児童の理解の状況やわかり方を基盤にした授業づくりに努めます。

□　どの教科の授業においても，自分の考えをつくり，根拠を基に交流する時間を設定し，今後も「書く力」「考えを整理する力」「自分の考えを表現する力」を伸ばします。

□　１人１台タブレット等，ＩＣＴ機器を活用して，基礎的な学力の定着を図るとともに，表現手段として効果的に活用し、児童の主体的・対話的で豊かな学びを支える授業づくりを推進します。

□　教師の学び合いも重視し，課題に応じた職員研修を計画的に実施しながら，授業力の向上を図ります。

②　周囲との関わりを大切にした場づくり

□　学校・家庭・地域が連携し，福津の「ひと」「もの」「こと」との出会いを積極的に仕組み，児童が主体的に地域に関わろうとする姿勢を育て，地域の一員としての自己有用感を育てます。

□　学級活動や児童会活動を全学級で推進し，児童一人ひとりが輝く場や，大切にされる風土の重要性を教職員全員で共有し，学校が児童にとって，安心で落ち着く場所となるよう努めます。